

講義名	対1)投資戦略論			授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時間	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

より実り多い経済生活のためにも個人（家計）の資産運用の必要性は高まっている。合理的な「投資行動」のためには金融証券市場を念頭において、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を養うことが重要である。しかし各種金融商品は複雑かつ多様化しており、その中での「最適」選択は難しい。それ故に、効率的な資金運用（投資）を行うために基本的な理論及び手法を学ぶ、高度化し、複雑化した金融商品及び、金融市場に関する解説する。また現実の動向を、タイムリーな事件、ニュースからめて解説していく。投資家目録での金融理論、ファイナンス理論を分かり易く解説する。多様な視点も考慮に入れて資産投資運用を自ら行えるようなることを目指す。多様なリスクの現実的な把握と対処法について議論、解説する。

到達目標

合理的な「投資行動」を自ら考えて実行するために役立つ金融証券市場の知識、リスク概念など学び習得したうえで、何に投資をするべきか考察し決断するための分析力と決断力を醸成する。リスクをどうマネージするかも考える。具体的にリスクの把握と設定、そしてそれに対する意識を高めることができる。投資家マインドを理解するように務めることにより、実践的な行動力と決断力が発揮できるようになる。

提出課題

授業理解度、進捗に応じていくつか小課題を課す。オンライン授業(オンデマンド版)になるので、簡単な演習のようなものを授業内で従来行ってきた。今回も検討中。その場合はその結果や分析を課題にした別途、小課題とする可能性あり。質問や意見他、従来の出席票裏面の自由コメント欄のように、メールおよびブログへの書き込みなどを積極的に行ってほしい。生産的なものは、加点方式で考慮する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義内で展開して解説及びブログを通じて補足的説明を行う。

評価の基準

オンライン授業並行であり、教室講義などをビデオ録画した視聴教材として提示する予定。個別の出席カウントや質疑は、メール活用、個別のオンライン面談なども別途要望があれば実施予定。小課題の結果提出など進捗度理解測定を様々な手法をつかって判断しながら実践する。コロナ禍対策として最終試験代わりに、まとめた課題レポートを課す予定。環境が改善して、試験に変更する場合は、試験50%+授業出席(オンデマンド視聴とメールなどで把握)30%+課題関係提出など(20%)で総合評価。メールによるコメントや質問など、授業参加度に関するものは、加点評価の予定。内容的にも有用なものは、講義内あるいはブログで補足および解説するので、積極的参加の姿勢を受講生は持つてほしい。

履修にあたっての注意・助言他

金融、株式市場並びに投資に興味を持つようほしい。日々の金融はじめ経済ニュースに興味をもって欲しい。不明な言葉などは、ネットでかまわないので、自分で調べてみることを強く推奨。その上で質問して欲しい。「準備を楽やするという意味での」投資につながる情報に敏感になること。定番定説的なことを説明するような講義でなく、ここでしか聞けない自身の講義を予定。新しい視点、アプローチを提案するような講義を自指さす。

教科書

特に定めない。

参考図書

その他

証券市場、金融市場、その仕組みなどについて解説してある一般の入門書の種類を積極的に読んでほしい。投資指南の種類の本や資料などは殆ど独立しないので動かないが、日経ウェリタスなどの金融専門新聞などをさっと見る方が参考になる。その他適宜必要に応じて授業中に参照及び提示する。適宜役立つようなものは、印刷して配布あるいは、ファイルで配布、AVコンテンツなどは、長期に亘り置いておいてもらう。オンデマンドでの利用も試行中。ブログ、youtubeを活用した、授業ログ(板書撮影ファイル(ppi)、音声ファイル(mp3)を復習用にアップしてきた。今回はビデオ録画講義を参照できるように準備中。復習などに活用して欲しい。(授業内で詳説予定)

授業計画

- 1-2 投資と投機の違い・消費行動と投資行動の違い、投資の意義伝授（「投資」行動の理論と実践）
 - 3-4 リスクの概念、リスクプロファイルの考察。（リスクとは何か）
 - 5-6 金融市場の基本的理解。金融機関とのつきあい方。
 - 7-8 証券市場の基本的役割。証券会社とのつきあい方。
 - 9-10 保険の仕組みと市場、主けしの仕組み、等
 - 11-12 ポートフォリオ理論の基礎（分散投資）
 - 13-14 不動産投資や商品投資、等投資意（仮想通貨など）とは何か。
 - 15 高度な金融派生市場の役割（デリバティブ、FX、CDSなど）、フィンテックについて
- 講義上における受講生からの積極的な質問や提案を求め、それらを積極的に取り上げながら講義を進める予定。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業録画ビデオを毎回作成、youtubeで公開（あるいはブログを通じてurlを公開）するので、復習予習時間（講義時間とは別に合計4時間）を、視聴などによる復習およびノート作成、整理に充当すること。自分の講義ノート（試験実施の場合は持ち込み可）を作成すること。また、講義で配布する配付資料および、指摘する新聞の関連経済記事、企業記事、雑誌記事、参考文献の自らの購読を行うこと。その過程で生じた疑問や、独自の見解などがあれば、積極的にメール（アドレスは講義で指示）などで問い合わせや提供をすること。それは他の受講生にも大いに参考になる。それが積極的な講義参加の一つの仕方である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

投資家としての投資運用手法や資産理論を学ぶ。物事には、成り立ちと理由（歴史と理論）があるわけで、それを理解することによって納得できれば、リスクにどう対応すべきかの代替案が考えられるようになる。評論家ではなく投資家のマインドと行動が理解できるようになる。経営戦略における投資選択決定に関連する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

メールやyoutube(講義録画)を活用した授業内容の発信及び質問他の受付。適宜解説。

実務経験の有無及び活用

外国銀行及びシンクタンク勤務経験があり、実業界、実務社会での要請や必要要件の理解認識を持っている。本当の「実学」教育訓練の実践を目指し、実行力、思考力の醸成、育成を目指している。

備考
